

日本は梅雨明けに猛暑を迎えたとのこと、お見舞い申し上げます。ここウガンダは乾季の真っ只なかです。7 月の半ばを過ぎますと雨季の走りなのか雨が 2、3 日続くことがあります。そうすると明け方の気温は 20 度を切り肌寒くなります。雨は長くても 1、2 時間で止みます。その後は強い日差しが戻りますので植物にとってはちょうど良い気候だと思われます。

1、サッカーワールドカップ 日本対ブラジル戦パブリックビューイング

ワールドカップの日本対ブラジル戦はカンパラの時間では 6 月 29 日午後 8 時キックオフでした。当地の日本人会よりなかなかない機会ですので必勝を期してパブリックビューイングを実施してはどうかとの提案を受けました。そこで公邸庭でパブリックビューイングを実施しました。



〔ビューイングの様子〕

約 30 人もの在留邦人の皆様が集まってくださいました。結果はご案内のとおりです。特に前半は正しく最高の景色でした。さらにその上の景色を見る事は叶いませんでしたが、在留邦人が一体となってサムライブルーを応援する貴重な機会となりました。次のワールドカップまでまたブラジルのような素晴らしいチームと対戦することがあるかどうかはわかりません。4 年後こそ最高の景色を皆さんと分かち合いたいです。

今回のワールドカップに向けてウガンダは残念ながらアフリカ予選で敗退してしまっています。未だワールドカップへの参加を果たしていません。最新の FIFA ランキングではウガンダは 89 位となっています。ウガンダもサッカーには力を入れています。アフリカネイションズカップを 2027 年にケニア、タンザニアとともにホストする予定です。ウガンダチームの愛称は「クレインズ」です。(国旗にも描かれているカンムリヅルから来た名称)。4 年後の FIFA ワールドカップの主な開催国はモロッコ、スペイン、ポルトガルです。ウガンダを含めてアフリカ勢の本格的な活躍も見ることもできるかもしれません。

2、スキーポン(バイオ・スティミュラント)のローンチング

アクプランタ社のスキーポンのローンチイベントが6月30日ジンジャの農業フェスティバルで実施されました。これまでも2024年8月号や2025年6月号においてスキーポンの進展について取り上げさせていただきました。今回は総仕上げでいよいよスキーポンのウガンダ国内向け販売が開始されます。そのためのローンチングイベントが農業フェスティバルの場を借りて行われました。

農業フェスティバルは毎年開催されている農業をテーマとした総合的な見本市です。会場には農業製品や農業機械のほか家畜や水産物の展示もありました。その中でスキーポンを適用したとうもろこしや他の植物と適用されていない植物の実験が行われていました。適用されたものとそうでないものの違いは一目瞭然です。スキーポン適用のものは見た目にもわかるくらいに豊かな実りとなっていました。

ローンチイベントにはムセベニ大統領の名代としてスキーポンに個人的にも深く関わってこられたナバンジャ首相が出席されました。本来はウガンダ農産品一般の見本市なのですがローンチイベントのおかげで日本との協力が焦点が当たることとなりました。当地 JICA の大崎所長と出席した筆者をはじめ日本の関係者は日本のウガンダ農業への貢献に度々言及がなされ、大変光栄に感じたところです。

筆者はこの機会に本年のウガンダ協力のインフラ関係の目玉である新カルマ橋やカンパラ市内に協力が見込まれるフライオーバー(カンパラ立体交差建設・道路改良事業)LOT2についても言及いたしました。すると会場より自然発生の「日本ありがとうコール」が湧き起こったのです。(アサーンテ(ありがとう)ジャパン！と唱和して拍手する。)筆者がイベントを終えて会場から車に戻る際にも何人かのウガンダ人に声をかけられ、さきほどの日本大使のプレゼンテーションはとても良かったと言ってくる人もおりました。

アクプランタ社の代表を務められる東京大学大学院のキム特任準教授始め、スタッフの皆様、大変お疲れ様でした。アクプランタ社はこれからさらにウガンダ国内への普及イベントを続けられるとのこと。さらにウガンダから他のアフリカ諸国への引き合い、展開も見込まれているとのこと。これがアフリカ諸国の食料安全保障、ひいては日本を含む国際社会の安定につながることを期待したいと思っています。

3、クワニア県アモリゴガ小学校教室棟建設計画:草の根無償資金協力

ウガンダの発展ぶりは目覚ましいものがありますが、初等教育の分野はまだまだ支援が必要な分野です。依然として子どもの3分の1は学校と無縁の生活を送っていると言われます。特に大きな都市や道路から外れたような場所は学校などのインフラ建設も容易ではありません。草の根無償資金協力はこのようなところに手の届く支援を目指しています。教育、人づくりは国の発展の根本にあります。将来を担う優秀な人材を1人でも育成することに役立つ事は、長い目で見れば日本を含む国際社会の

ためにも役立つでしょう。ウガンダでは長年の取り組みにより 300 件近い案件を実施してきました。

この計画は贈与契約署名から 6 ヶ月と言う迅速なスピードで建設工事を完了させ、このたび引き渡しを終えその記念行事を行ったものです。在ウガンダ日本大使館から吉田次席が式典に出席して参りました。



〔式典の様子〕

今回の教室2棟とトイレ3棟などの建築により教室 1 つあたりの平均児童数は現状の 135 人から 81 人になったとのことです。それでも 80 人を超える過密な状態です。皮肉なことに環境が整備されれば、学校へ通学を希望する児童の数も増えるというジレンマにあります。この計画を申請し、実行に移して下さった学校の関係者、地方行政の関係者に深い敬意を表したいと思います。聖書の言葉に「あなたがたは地の塩、世の光である」という言葉があります。筆者も現地でのプレゼンテーションにおいて度々引用する 1 節です。このような取り組みがウガンダ全体にさらに深く広く広がることを願っております。

(以上)